

## 【シマ（奄美）の歴史】④ 室町時代前期

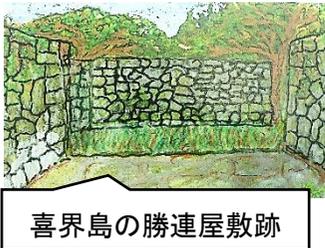
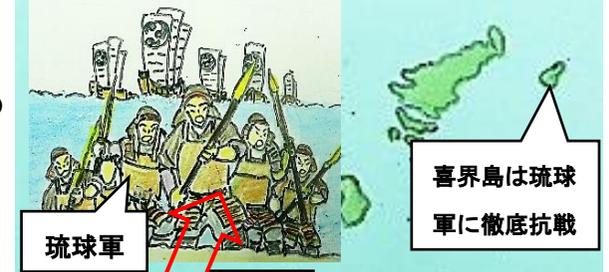
ヤマト（日本）で室町幕府が開かれた14世紀初め頃、沖縄では各地の按司たちが3勢力に統合され、北山・中山・南山の三山時代になります。沖永良部島と与論島は北山の勢力下であり、また喜界島は中山と繋がりが強い勝連按司の勢力下にあったと考えられています。このころから倭寇（海賊）も度々奄美沖縄近海に出没します。

やがて三山を統一した中山は琉球国王となり、北山の領土だった与論島と沖永良部島も統治していきます。この時に、沖永良部島を治めていた世之主一家（北山王の一族）は、琉球王国の交渉の船を「攻撃の船」と間違え自ら命を絶ちます。その墓が和泊町に残されています。こうして1429年沖永良部島と与論島は琉球王国の領土となりました。その後徳之島が、1447年に奄美大島も統治下となりました。最後の喜界島は古くから南海交易の利権があり、財力と武力もあり、琉球軍の攻撃に10年以上も抗戦しますが、ついに1466年に琉球軍2000人の大軍に陥落されます。喜界島白水には沖縄の勝連親方屋敷跡が、また志戸桶には尚徳王の墓が残されています。

この頃、奄美大島の各地で山頂や台地の上にお城が築かれます。尾根筋を平坦に造成して、防御のため尾根を切断する堀切（溝）や土手（土塁）が設けられました。代表的な城跡に奄美市笠利町の赤木名城跡があります。

こうして奄美群島全域が琉球王国の領土となりました。琉球王国の奄美支配は、各地域を「間切」に行政区分し、各間切には大親と呼ばれる最高職の役人と、その下に与人という役人が置かれ、その下に集落単位の役人が配置され、さらにノロと呼ばれる女性神職が配置されました。ノロは琉球国王から任命され、豊作祈願や人々の無病息災などを祈りました。1446年琉球王国は奄美全域に農産物などの年貢の納入と城や道路造りの夫役を命じました。これに対し、屋喜内間切などで反乱が起こりますが、琉球軍に鎮圧されます。

与論島に按司根津栄伝説があります。怪力勇敢で剣術弓名人でしたが、琉球国王と弓の貸し借りがもとで、千人の軍で攻められます。それを全滅させますが、敵の矢で死んでしまいます。人々はその死体を海が見える丘に立て再襲撃に備えます。その姿に恐れられた千人の琉球軍は混乱し、海に沈むなど自滅します。「生きて千人、死んで千人」と語り継がれ、与論の守り神様として祀られています。



## 【ヤマト（日本）の歴史】⑤ 江戸時代前期

豊臣秀吉の死後、徳川家康は多くの大名を味方につけ勢力を強めます。1600年関ヶ原の戦いで徳川家康は豊臣方を破り、1603年征夷大将軍となり、江戸に幕府を開きます。そして1615年には大阪城に立てこもる豊臣一族を滅ぼし、完全に天下統一を果たします。江戸幕府は2代将軍秀忠から3代将軍家光の時代に大名が守るべき「武家諸法度（城の新築禁止・大名間の結婚禁止など）」や参勤交代などの制度を定め、全国支配の仕組みを整えました。武家諸法度に反した理由で取り潰



徳川家康

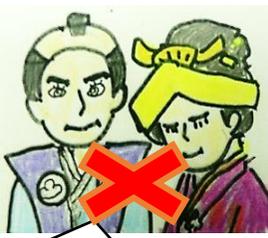


大阪城落城

された大名は多く、江戸幕府開始は91家だったのが、50年ほどで29家に激減しました。また、宣教師が伝えるキリスト教は幕府の統治の妨げになるとして禁止し、信者を厳しく弾圧しました。そして貿易もキリスト教を広めない中国とオランダに限定し長崎の出島で行い、外国への行き来も禁止しました。これを鎖国と言います。



城の新築禁止



大名間の結婚禁止



自国～江戸への参勤交代

諸大名は1年おきに自国から江戸へ行列を組み出向き、将軍に服従を誓いました。そこで1年間江戸警護などを務めて帰国しますが、大名の妻と子は人質として江戸の屋敷に住まわされました。江戸滞在費や途中の旅費などばく大で、大名には大きな財政負担でした。（※参勤とは江戸へ赴くことで、交代とは自分の領地に帰ること）

家康は諸大名を、徳川家の親戚の「親藩」、古くからの家来「譜代」、関ヶ原の戦いで敗れたため徳川家に従った「外様」に分け、特に外様大名には監視し弱体化を図っていました。薩摩藩は外様大名でした。豊臣秀吉の時の7年間にわたる「朝鮮出兵」に薩摩藩は1万の大軍を送り、そして関ヶ原の大敗などで苦しい財政状態でした。

そこで薩摩藩は、秘策を実行します。「朝鮮出兵の際に、琉球国は食料や兵を出さない無礼だった。」との理由をつけ、家康に「罰として琉球を懲らしめる琉球侵攻」を申し出て許可されたのです。しかし、薩摩藩の真の目的は藩の苦しい財政を立直すための「琉球と明（中国）の貿易利益の横取り」でした。



徳川家康

何々、琉球国の無礼を懲らしめると言うのか？

外様の薩摩藩が兵や戦費をたくさん使い弱体するのは良いことだ。やればいいよ。ふふふ・・・。

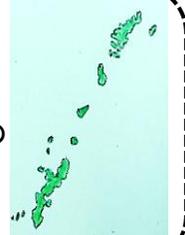
島津家久（想像画）



しめしめ、これで堂々と琉球国に侵攻できるぞ。

明との貿易の利益はわが藩のものだ。そして奄美の

島々からも税をたつぷり搾り取るぞ。ふふふ・・・。



## 【シマ（奄美）の歴史】⑤ 江戸時代初期

江戸時代開始間もない1609年、薩摩藩は琉球王国へ軍事侵攻し琉球王国を支配しました。目的は琉球国の明（中国）との貿易の利益の横取りでした。薩摩藩は、関ヶ原の戦いで豊臣方に味方したため、外様大名となり、幕府からの公共工事の負担や参勤交代費用などで苦しい財政でした。そこで1609年4月、薩摩軍3000名は軍船で山川港を出港し、途中で琉球国支配下の奄美群島を攻撃します。笠利町手花部の津代では海岸線に防護柵を設け抗戦しますが圧倒的兵力の薩摩軍に征服されます。また徳之島秋徳湊（現在の亀徳港）では、島民たちも乏しい武器で勇敢に戦います。陸上戦で薩摩軍を追い返しますが、軍船からの鉄砲攻撃で敗れ降伏します。両軍合わせて300名以上が戦死しました。そして薩摩軍は南下し琉球王国に侵攻します。琉球王国も激しく抵抗しますが、力尽きて5月に降参し、薩摩藩の支配下に置かれました。そして1611年、奄美群島は琉球王国から切り離され薩摩藩の直接支配地となりました。

薩摩藩はこの支配を対外的に隠すため、表向きには琉球国を独立国家として存続させ、奄美群島も「琉球国之内（琉球王国の領土）」とし、島民の服装は大和風でなく琉球風にさせました。琉球王国統治時代からの七間切制度を継承し、それぞれの間切を2つの「方」に分け、七間切十四方にしました。（例：屋喜内間切は宇検方と大和浜方になった。）そして間切最上級役職の「大親」は廃止され、新たに各間切の各方に「与人」が設置され、他に「横目」「筆子」などの役職が置かれ、島役人による行政組織が整えられました。こうして奄美群島の「薩摩世」が始まり、琉球（沖縄）とは異なる歴史を歩むことになりました。

笠利町手花部津代で薩摩軍に島民たちは海岸で抗戦する



奄美島民の身なりは大和風でなく琉球風にさせられた。



屋喜内間切 (大和浜方)



七間切十四方

屋喜内間切 (宇検方)



山川港

薩摩軍出港

手花部津代で抗戦

秋徳湊で抗戦

征服され、王は薩摩へ人質に連れていかれる

薩摩軍と戦う徳之島の島民たち

薩摩藩の直接統治 (領土)

多額の税

江戸幕府の南限

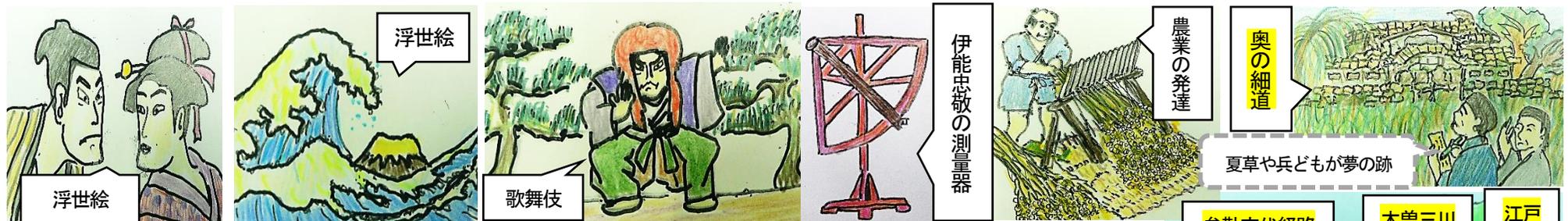
奄美は表向きは琉球国 (実際は薩摩支配地)

薩摩藩の間接統治

薩摩藩は、対外的には琉球国の存在を装った。

## 【ヤマト（日本）の歴史】⑥ 江戸時代中期

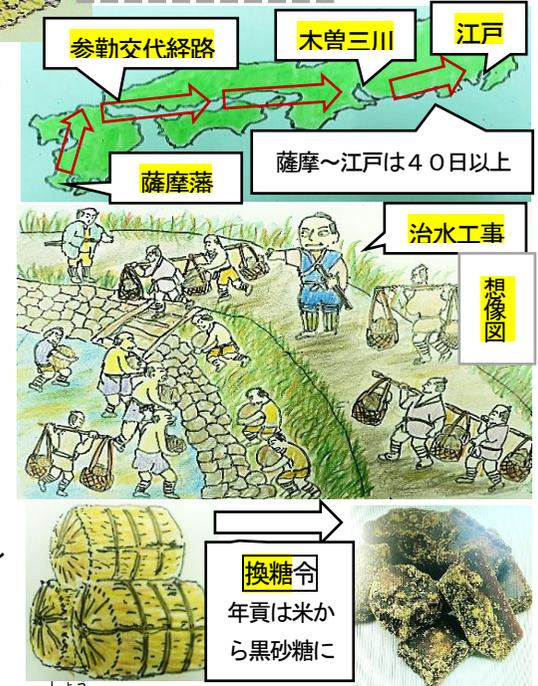
戦乱の世が終わった江戸時代には、芸能・芸術・医学・化学・学問・産業が目覚ましく発達発展しました。歴史物語や事件を演じた歌舞伎や人形浄瑠璃は庶民の楽しみでした。名所風景画や美人画などを多色刷りの版画にした浮世絵も大量に売買されました。これらは後に世界の絵画にも大きな影響を与えました。杉田玄白や前野良沢が人体の解剖を見て、オランダ語の医学書を日本語に翻訳した「解体新書」を出版すると、蘭学（オランダ語）が盛んになりました。また、「古事記」や「万葉集」など日本古来の学問の国学も広まりました。松尾芭蕉は東北を旅し「奥の細道」で俳諧を発展させました。伊能忠敬は日本中を測量し正確な日本地図を完成させました。各地で農地が拡大し、幕府開始期から田畑は2倍ほどになり、農機具や肥料も工夫されて商品作物栽培も盛んになりました。一方で重税に反発した農民一揆も各地で起こりました。



1754年（宝暦4年）、薩摩藩は幕府から美濃の国（現：岐阜県）の木曾川・長良川・揖斐川の治水工事を命ぜられました。この3つの川は、川底に高低差があり、互いに合流、分流する複雑な地形から洪水が多発していました。幕府のねらいは外様大名の薩摩藩の財政弱体化もありました。工事は困難を極めました。薩摩から総奉行の平田鞞負と共に来た家来たちは、工事資材の土砂・石材・材木などを遠い山奥から運び、冬の冷たい風や川水の中で大変な重労働でした。食料不十分で栄養不足や伝染病などで多くの犠牲者も出ました。この治水工事の費用は40万両以上にもなり、薩摩藩には大きな負担となりました。

この以前から薩摩藩は奄美の黒砂糖が米よりも高額品であることに目を付け、以前から薩摩藩の専売制度にしていたが、1745年に年貢米一石に対して納める黒砂糖の斤数を定めた「換糖上納令」を発令し、奄美から強制的に黒砂糖を納めさせました。これにより奄美群島では稲作からサトウキビ栽培への転換が進みます。初めは奄美大島・喜界島・徳之島からでした。

（※ 当時の1万両は現在の米の価格から計算して約6億円で40万両は約2.40億円）（※ 米1石はお酒瓶1升の100本分の約100升で約180kg。）

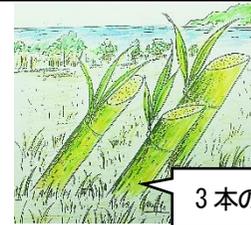


## 【シマ（奄美）の歴史】⑥ 江戸時代中期

龍郷生まれの田畑佐文仁は薩摩の国分地方で新田開発工事を学び、1712年から14年間、奄美大島各地で海を埋め立て、山の開墾を行い、500ヘクタールの田畑を造成し、狭い耕地で貧しい生活の島民を助け、さらに製糖用水車の開発など奄美の農業発展に尽力しました。特に龍郷湾奥の「浦の橋立」は海中に600mの堤防を築いて海をせき止め、トンネル「とおしめ」を掘り、海水の出入りを調節しながら干拓を行いました。これにより約20ヘクタールの広大な土地ができました。また、一説には、「俵に土石を入れ、堤防の土砂の流失を防いだ」と言われています。



【サトウキビ伝来・直川智伝説】（大和村開饒神社の碑文から） その昔、大和浜の直川智は琉球へ渡る途中、嵐で遭難し中国のある村に漂着した。そこでサトウキビ栽培と黒砂糖生産技術を学び、3本のキビ苗を持ち帰り大和村の大金久西浜に植えた。サトウキビは見事に実り、黒砂糖生産にも成功した。これが奄美各地に広まっていった。

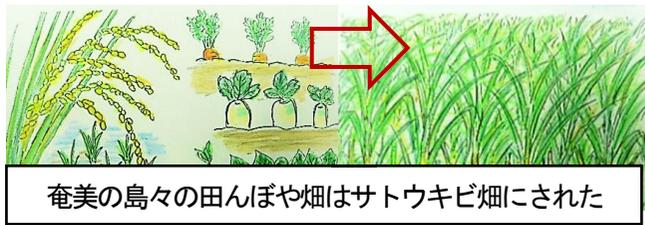


サトウキビ伝来・黒砂糖生産の経緯や年代等は諸説ありますが、大和村の「和家文書」の直嘉和知（川智の曾孫）や三和良（和家の先祖）の業績記述から、直家や和家の深い関与がうかがえます。また、薩摩藩の専売制度が1713年からであることから、これ以前から奄美ではサトウキビ栽培・黒砂糖生産が盛んになっていたと考えられます。



黒砂糖

薩摩藩は1745年、奄美からの年貢を米から黒砂糖にする「換糖上納令」を出しました。当時、黒砂糖は栄養豊富で美味なため「天下の台所大坂市場」では高値で取引されました。その収益に薩摩藩は目を付けたのです。薩摩藩は木曾川治水工事や参勤交代などの出費でばく大な借金が重なり、藩の乏しい収入だけでは借金の利息さえ払えない悲惨な状況でした。そこで薩摩藩は、「奄美の黒砂糖で財政再建」を企んだのです。しかし、島民に割り当てられた量の年貢黒砂糖を納めるには土地は狭く、米野菜栽培の田畑はサトウキビ畑に変えざるを得ませんでした。米やイモなどの保存食が生産できず飢饉の時の食べ物不足、1755年の凶作で徳之島では3000人が餓死しました。こうして後に黒砂糖の私売を禁じ、生産した黒砂糖は米などの諸物品と薩摩藩が設定した不当価格で買い入れる「総買入制」が始まると、本格的な「植民地」「黒砂糖地獄」になっていくのです。



奄美の島々の田んぼや畑はサトウキビ畑にされた



島で餓死者続出

## 【ヤマト（日本）の歴史】⑦ 江戸時代末期

1830年、江戸幕府による財政改革「天保の改革」を受けて、薩摩藩で藩主・島津重豪と家老・調所広郷が藩財政再建の策を練っていました。

島津重豪



調所よ、わが藩の借金は500万両になった。利息だけでも年60万両だ。藩の年間産物高はたった14万両だ。これではとても返済できない。日本一の貧乏藩だ。このままでは倒産だ。何か策はないか。

調所広郷



- ・借金は250年で返済
- ・奄美群島の黒砂糖収奪
- ・生活品の高値売りつけ

500万両の借金は今後250年間で返しましょう。それも利息無しの元金だけにしましょう。踏み倒しですが「実質借金無し」になります。名案でしょう。ふふふ……。

奄美群島の黒砂糖は高額品です。島民には米野菜を作らせずに、黒砂糖だけ作らせて年貢黒砂糖を増やしましょう。年貢以外の黒砂糖も島民らが自由に販売することを禁止して全部藩が買い取り、大阪市場で高く売るので。島民の生活品は藩が定める高値で売りつければ藩が丸儲けです。違反者は厳しく罰すれば皆従うでしょう。ふふふ。

ペリー提督



アメリカは太平洋でクジラを捕獲中だ。捕鯨船の燃料や食料・水が必要だ。鎖国をやめろ。日本での犯罪もOKね。貿易利益も俺たちの有利にするぞ。

開国は朝廷が許さない。諸藩も反対し国は混乱だ。しかしアメリカは強いし怖い。仕方ない、開国か……。

徳川慶喜



江戸幕府が財政改革に取り組み始めた頃、1853年と翌年、アメリカ海軍提督ペリーの「黒船艦隊」が来航し、捕鯨船への食料や水の補給などを要求しました。幕府はその

圧力に屈し、下田（静岡県）などを開港し、その後には貿易や裁判の不平等条約を結び、鎖国から開国へと舵を切りました。国内でこれに反発する「尊王攘夷運動＝天皇を敬

い外国を排除する」動きが出ると、幕府側は弾圧を行い（安政の大獄）、逮捕・死刑・暗殺が広がり国内は大混乱になりました。しかし、外国排除の中心だった長州藩（山口

県）や薩摩藩（鹿児島県）がイギリスやアメリカとの戦いで惨敗すると、両藩を中心に「日本は進んだ西洋文明を

習い巨大な軍事力を持つべきだ。」と、尊王倒幕運動の気運が高まってきました。土佐藩出身の坂本龍馬が仲介

した薩摩長州同盟を軸とした大きな勢力に屈し、1867年、15代将軍徳川慶喜は「政権を朝廷（天皇）に返上

する大政奉還」を宣言しました。さらに薩摩藩の西郷隆盛・大久保利通、長州藩の木戸孝允、公家の岩倉具視ら

が中心となり、「王政復古の大号令＝幕府の完全廃止」を宣言しました。それに反発する幕府軍との戦いもありましたが、薩摩長州軍を主力とする新政府軍に敗れます。こう

して鎌倉幕府から700年ほど続いた武家政治が幕を閉じました。



新政府と幕府軍の「戊辰戦争＝函館・五稜郭での戦い」

## 【シマ（奄美）の歴史】⑦ 江戸時代末期

薩摩藩の黒砂糖収奪で、奄美群島は「黒砂糖地獄」にされました。大量の年貢黒砂糖を納めるため、田畑はサトウキビ畑に変えざるを得ませんでした。島民たちは日々の食べ物無く、魚介類をはじめソテツの実を毒抜きした澱粉やシイの実などで飢えをしのいでいました。台風や飢饉のときは餓死者も多く出ました。年貢で残った黒砂糖も全てお金でなく、島民の必要とする食料や衣類などと薩摩藩が物々交換しました。それも超不当取引で薩摩藩が大儲けする仕組みでした。この「総買入制」を徹底するため、島役人に島民の労働状況を監視させ、島民は朝から晩まで働かされました。そして島民が黒砂糖を隠して食べたり、自由に販売することを禁じました。違反すると首枷や村中引き回し、遠島・死刑などの厳罰にされました。この黒砂糖収奪とP⑦の「借金250年返済」策で薩摩藩は500万両の借金を実質無くし、逆に幕末には300万両の財を蓄えたとされています。

この黒砂糖収奪はさらなる地獄を生みます。台風や干ばつ等で不作でも藩は年貢免除しませんでした。そこで貧しい農民たちは豪農に借金を繰り返し、ついにその豪農に身売りする債務奴隷（家人ヤンチュ）となりました。家人になれば年貢免除になりますが、身売り利息が高く、借金返済できず、大半がずっと家人のままでした。家人を抱える豪農たちは、当時の島民の3%ほどで。大半は一般農民が家人でした。その豪農たちは島役人となり、職と富を手に入れましたが、大半の島民は「黒砂糖地獄」でした。貧富の差が拡大する時代でした。特に悲惨なのが、「家人どうしの子は終生家人のまま」という、まさに生き地獄でした。



島民の労働を監視する役人



首枷の刑（「南島雑話」から）

### 黒砂糖3kgと物品の交換例

【大阪市場では】

米9kg 塩15kg

【薩摩藩から奄美へ】

米1,5kg 塩1,6kg

※物によって数十倍の差額あり

「奄美の債務奴隷ヤンチュ」から  
参考計算引用

### 【犬田布騒動いぬたぶそうどう（1864年・徳之島）】

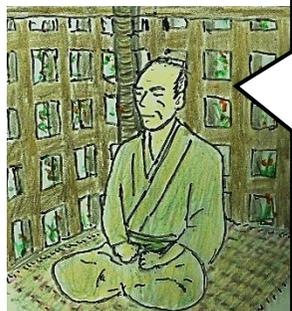
農民為盛が黒砂糖密売の疑いで拷問を受けた。

為盛救出のため農民150人は仮屋を包囲し、役人

を追い払い、森に7日間籠城した。

奉行所も全員を罪人にはできずに、

7人を遠島にして無血解決した。



西郷隆盛は幕末、藩の命令で奄美龍郷・徳之島・沖永良部島に遠島になりました。龍郷での愛加那との子・菊次郎は後に台湾や京都の発展に貢献します。沖永良部島では野外の牢屋に閉じ込められました。島々で島民に学問を教えたりし交流を深めました。後に明治維新の立役者になりますが、この奄美暮らしが後に西郷の人格形成になったとも言われています。



ペリー  
の日記

私ペリーは江戸への途中、奄美で島民ら

とアメリカのパン・豚肉と島の野菜・鶏

肉を交換しました。Thank you です。

# 【ヤマト（日本）の歴史】⑧ 明治時代初期

1868年、明治天皇の名で政治の方針「五か条のご誓文（例：政治は会議で決定しよう）」が宣言され、明治時代が始まりました。薩摩藩出身の大久保利通らの官僚を中心とする明治政府はいろいろな制度改革を進めます。各地の「藩」を廃止し「府・県」とする「廃藩置県」で藩主に代わり政府の役人を任命しました。また「富国強兵」策のために殖産興業（近代的な工業推進）や、徴兵令（強い軍隊づくり）や地租改正（税制改革で国の収入安定）など推進しました。外国の進んだ文化も広まりました。身分制度は改められ、旧武士も農民らも平等とされ、住居・職業も自由になりました。福沢諭吉が書いた「学問のすすめ」や「学制（6歳以上男女の義務教育実施）」により、教育も広まりました。電報や郵便制度も整い、鉄道も開通し、大都市ではガス灯もともり、インフラ整備が進み、洋服を着る人や牛肉を食べる人が増えました。これを「文明開化」と言います。それまで武士だった士族は収入を失い生活苦や魔刀令で刀を没収され、政府への不満が高まり、各地で士族の反乱が起きました。鹿児島では西郷隆盛を中心に西南戦争がおきますが、進んだ武器を持った政府軍に士族中心の西郷軍は敗れます。この後、武力反乱は治まり、言論で主張する社会になっていきます。やがて板垣退助らが国会開設や憲法制定などを求める自由民権運動として全国に広まります。そして1889年、天皇が国民に与えるという形で「大日本帝国憲法」が公布され、翌年に国会議員選挙と帝国議会が行われました。最初の総理大臣には伊藤博文が任命されました。

学問のすすめ「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず・・・」



福沢諭吉  
人はみな平等である。

### 【富国強兵】

(殖産興業) (徴兵令) (地租改正)

(製糸工場等) (3年軍役) (地価3%税)

### 【文明開化】

(鉄道開通) (ガス灯) (洋風の髪型・服) (学制)

明治天皇

大久保利通

廃藩置県・魔刀令

武士の身分と収入失う  
刀取り上げて誇り失う

新政府への不満爆発

西南戦争

初代総理大臣  
伊藤博文

明治時代になり琉球王国から沖縄県へ

明治政府は琉球を日本領土とし、まず「琉球藩」を置き、琉球国王を藩主としました。そして1879年に人々の反対を抑え「沖縄県」を設置しました。国王は東京に移住させられ、永年の琉球王国は幕を閉じました。

この過程を「琉球処分」と呼んでいます。

## 【シマ（奄美）の歴史】⑧ 明治時代初期

明治時代になり薩摩藩から鹿児島県になっても「黒砂糖地獄」は続きました。県は旧武士の生活救済と財政確保のため「大島商社」を設立し、

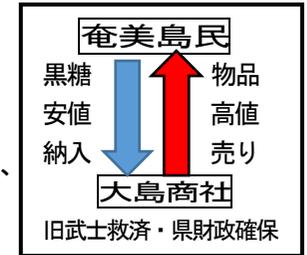
「島民は大島商社だけに黒砂糖を売る。生活品は大島商社と物々交換する。」ことにしました。これは江戸時代同様、島民から黒砂糖を安く買い、

島民には物品を超高値で売りつける手口でした。そこへ1875年（明治7年）、西欧で学んだ青年丸田南里が帰郷します。南里は島の惨状に憤慨し

同志らを集め、「黒砂糖は自由に売り、物品も正当な値段で自由を買うのが当然だ。」と黒砂糖勝手売買運動を始めます。しかし県での直訴は暴力で

追い返され、島では警察に逮捕投獄され、また陳情団も県で投獄されたあげく西南戦争に駆り出されて多くの戦死者を出し、さらに帰島中に船が

遭難、多くの犠牲者を出し、南里も非難されるなど苦難の連続でした。しかし、島民の「全島沸騰」の熱く激しい運動で、ついに大島商社を解体に



貧苦にあえぐ島民

追い込んだのです。

1865年、薩摩藩は奄美大島の4カ所に白糖製造工場を設置する。貿易商の英国商人グラバーは奄美来島で南里と出会う。

利発な南里を「ナンリーボーイ」と呼んでいた。南里はグラバーから英語を学び外国の話を聞くうちに海外渡航を夢見るようになりグラバーが帰国の際、共に海を渡ったのである。【史伝「丸田南里」から抜粋引用】

丸田南里の墓（名瀬小近く）



笹森儀助

こうして1871年、大島商社は解体されましたが、県はすぐに1888年（明治21年）、大和村大和浜に赴任経験がある桂久武たちの提案で、「南島興産商社」を設立

し黒砂糖独占販売の継続を企てました。これに対し、大島島司（大島支庁長）に任命された元弘前（青森県）藩士の笹森儀助は、4年間、適正な入札制度や役人へ

適正勤務指導を行い、島民の状況改善のため「勤勉・儉約・貯蓄」による自助努力（三方法運動）を指導しました。これにより島民の負債も減少しました。また

衛生指導や災害者の救援、さらに学校教育支援など、奄美の救済と発展に尽くしました。